

無雪期

200 /
B /

山行報告書



SAC

信州大学山岳会

目次

- ・奥秩父釜ノ沢東俣 ----- 1
- ・蝶・常念岳 ---- 2
- ・白馬三山 --- 3
- ・中ア・南部 --- 4
- ・錫杖岳 --- 5
- ・ " --- 6
- ・黒部源流を釣る --- 7~11
- ・北ア縦走 ---- 12~15
- ・錫杖岳開拓 --- 16~26
- ・北岳バットレス --- 27
- ・燕岳~蝶ヶ岳 --- 28~29
- ・上信国境魚野川 ----- 30
- ・釣岳紅葉山行 ----- 31
- ・冬合宿偵察 ---- 32

奥秩父釜沢東俣 6/16 ~ 6/17

メンバー: 横山輝生(4), 岸本俊郎(5), 横山勝(4), 日高元次(5)
1年生全員(井上, 中福, 柳沢, 片岡, 牛田, 高野)

6/16(土) 4:00 松本駅 = 8:00 頃 広瀬・車止め ~ 12:00 山1神
~ 15:00 魚止めの滝下り.

当初、7人の予定が、10名に近胸水上り。7人合宿の様になっていました。小雨がパラッパしていたが、水量はそれ以上で4人近く。天候も回復する見通しだったので入渓した。途中、ホウの貝のゴルゴの入口を岸本・日高・Knockの3名で見に行くが、水量が4人近く。帰りの巻き返しを必死で泳いで戻る。軽い気持ちでいたらいかんね。全く。

魚止めの滝でガ、7を下し。上の+Xへ遊びに行く。1年生も+X滑りけいに入ったように感じた。魚止めの滝を、調子になって滑ったらケツを思いきり打ってしまった。滑り、滑り。

夜、牛田がおたけんを上げていた。恐い、恐い。中福以下、本気でかえっていた。

6/17(日) 4:00 起床 ~ 6:00 出発 ~ 10:00 両内1滝 ~ 11:50 甲武信小屋
~ 12:00 甲武信岳 ~ 15:30 頃 車止めへ下山。

たき火で朝食を作る。やはり決めたき火だね。氷に限りせず、干置の+Xを過ぎ、両内1滝へ。1年生も7/17ジョーンを使う事になったように感じた。両内1滝でガイルを出すかと思おれたが簡単に巻けた。最後の+Xではお花火が出向いてくると、いい気分だった。

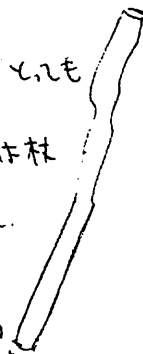
甲武信山頂は人でごった返っていた。ガスが4人近く。景色がぼんぼん見られなかったのは残念だった。

最後は近本新道をだらだらと下り下山。

雨続きの中、久しぶりに晴れた山行だった。

文責: Knock

近本の下り道でも役に立った林。じいんのせがれ林が必須。氷に味をしめて、ストックを買った。道具も人も佳い。次第だね。



蝶～常念寺報告書

期間 6月23日24日(2+0)

メンバー 佐藤祐樹(L), 横山勝立(A)

高谷英太郎(1), 井上あゆみ(1)

中福愛留(1), 柳沢直子(1)

加藤士人(モンゴロイド)

日程

1日目 三股～蝶七ツ下T.S.

Xシが「おん」とスリッパ「ッ」ティー — 女が「おん」影
響か? Xシの質がよくなった。非常にうまい!!

しかし、夜の2時ころ、暴風雨のためテント2張
つぶされる。周りの人々のテントもつぶされ、蝶七ツ
下のToiletに進げこむ。ここで仮眠。

2日目 蝶七ツ下T. ← トイレの略
～三股

あやと朝、明るくなったころ暴風のなか三股へ
向かう。陸橋をぬけずとすぐR風はみくまりト
ボトボト帰る。

感想

山行は失敗したか。1年生の馬^経を考えるとよ
かよかと思える。今ではしょせん「鬼」出「だ」。

トイレで「食」ったカレー-X>は113113722こと
を連想させられた。

白馬三山 6/30 ~ 7/1

メンバー：横山輝生(4)、井上あゆみ(1)、中福愛留(1)、柳沢直子(1)
牛田光昭(1)、高谷英太郎(1)

6/30(土) 5:00 松本発 = 7:00 猿倉 ~ 8:00 白馬尻 ~ 大雪渓
~ 13:00 頂上宿舎 ~ 14:00 白馬岳 ~ 15:00 宿舎 T.S.

亮介さん、堀さんに見送られ、雨の白馬へ向う。

登るにつれ、雨足が強くなり、風もでてきて、やれやれという感じだった。
頂上宿舎のテニ場には誰もおらず、少しさみしい。

雨の中、白馬へ向い、雨、風、ガスの中、山頂へ立つ。

誰もいない山頂で、景色も何も見えず、少しむなしい。

テニ場へ下りた頃は風が弱かったが、エッセの辺りから風が強まる。

白馬の強風に不安になるが、今は寒冷前線の通過中で一番風が強い
んだろうと自分に言いかけ眠る。……しかし、ギンロップは弱かった。

気がつくころ入口の自分は体が半分できていて、ポールはハキハキに折れ

フライはヒコカに飛んでいた、1年生は横たわっているのか走りようも

ない。おっちゃんを知らなかったが、このままでは個装も飛んでいき

たので、トイレへ緊急避難させる。冬かと思われる程の強風が
吹き寄せ、1人ずつトイレへ送り、やっと思いで避難する。身も凍れた。

7/1(日) 3:00頃避難 ~ 9:00頃迄待機 ~ 9:30 出発 ~ 12:30 白馬尻
~ 1:30頃猿倉へ下山

トイレで朝Xシの足ばせすすり、夜明けまで「ベルトを被」て待機。

さらに風が弱まる迄待機。ポールとフライを回収しに行く。ガスが

晴れ、風も弱まってきたので、さっさと隣線上から降りる事にする。

少し下りた辺りで風は失くす、ホッとする。気がゆるんだのか、途中

高踏が足をくじいたり、中福が雪渓で足を滑らせる。でかい落石

が落ちてくる等、ハプニングがあり、ヒカヒカした。やはり下山は慎重に。

天気の良い白馬は二度と行かないと心に誓った山行だった。

1年生はお波木様。

反省点としては、天気が悪いとあらかじめ分っていたし、

メンバーの構成も考慮してピストンの中近にするべき

であった。縦走したい心なXではいけない。

1:30が限界かと思う。3000mを

3

文章: knock



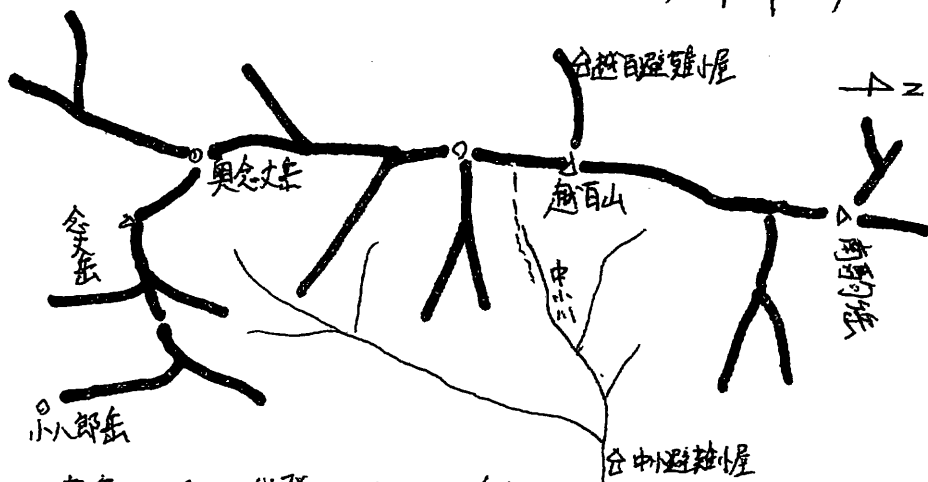
明日天気にして大いお

中央アルプス南部 中小川～南駒ヶ岳～念丈岳

期間: 7月14日～7月16日 (2+1)

山行メンバー: L松崎(4) 梶原(4) 井上(1) 中福(1) 柳澤(1)

概
念
図



7月14日: 4:00起床～4:50出発～6:00入渓点～5:00越百山
～5:40越百避難小屋

前日に中小避難小屋で泊まる。中小避難小屋までの道は悪い。中小川への入渓点で少々迷う。中小川は、登山道にほぼ沿った形で流れているため滝やゴルジュの部分は、道に逃げることができる。人の姿はなく、しっかり進行すれば楽しい沢であると思う。ただ、一年生を連れていくのはどうかと感じた。源流に近づくともた雪渓が残っており、ヤブ尾根へと移る。これが意外とや、かいで3ピッチも稜線にでるまでかかってしまった。しかし、今日は小屋で泊まれるのだからと思い、越百避難小屋へと急いだ。小屋に着き入ろうとすると営業しているではないか。記述には通年開放となっているのに…この後は、小屋の主人とすたむたの末に小屋に泊めさせてもらった。

7月15日: 4:30起床～5:30出発～6:30越百山～8:00仙班嶺～13:00念丈岳
～15:00念丈岳～17:00烏帽子岳～20:00小人郎岳～21:30下山口

南駒ヶ岳ヒストンは、時間がないためカット。それにしても南駒ヶ岳～念丈岳は、時間がかかった。エリアのコースタイムを大幅にオーバーした。杖先ぐるいのササが登山道を隠している。かなり焦った。戻りに戻れないのでなんとしても進むしかない。ああ、お気楽山行のつもりが…幸運なことに念丈岳から先は、刈り払いがしてありスムーズに進むことができた。それにしてもヤブはあつどてはいけな。登山道のない所の計画は、相当余裕を持って立てるべきだと思った。

7/14 錫杖岳

横山 勝丘(4) 佐藤 祐樹(2) 大木 信介(5) 岸本俊朗(5)

今回は 2 パーティに別れて前衛フェースを登り、上でビバーク、翌日合流して本峰フェースを登るつもりだったが、天候が悪く全くの消化不良で終わってしまった。

14 日朝、松本を発つ。天気はあまりよくないが、槍見の駐車場は多くの車が停まっている。今日は「チーム比哲」が注文の多い料理店、「チーム物循」がジェードルルートということにし、岩小舎で合流ということになった。これはジェードル隊の記録。

左方カンテは朝一で取付く。1P 目、横山リードで 50m ぎりぎり伸ばす。簡単。2P 目、下部核心を佐藤リード。今回、ビバーク装備を持ってきたので荷物が重い、もとい、ビールやらつまみやら持ってきたので…。ビール背負って本チャンするのは初めて。何だか知らないけど 25 * くらい荷物があって馬鹿馬鹿しいったらありゃしない。というわけで、結構苦勞する。何とかフリーで越える。後ろのパーティがすぐそばまで来ていたので、チムニー下のテラスで先に行ってもらおうとしていたのに、無視して抜かして核心を登り始めやがった。そしたらそいつ核心で詰まりやがって動けない。痺れを切らして登り始めようとしたら来るなど言う。仕方なく待っていたが、限界になり、無視して行く。さようなら。チムニーは横山リード。荷物が大きすぎる。何だかオフィススを登っているみたい。その上のフェースまで伸ばすが、濡れていて怖く、ついに A0 してしまう。あ〜パンプ。ジェードルの分岐でピッチを切るが、この頃から雨が降り出す。佐藤が一度トラバースを始めたが雨が強くなってきたので、もうすぐシーバー交信ということもあり、戻る。シーバー交信で、注文はびしょ濡れのためフリーではいけず、それでは面白くないということで戻ってきていた。二人は既に戦意喪失。話し合いの末、雨も止みそうにないのでとりあえず下に戻ることにした。懸垂中、たくさんの人たちが登ってくる。左方カンテは凄まじい人気である。もっと他のルートに行けばいいのに。下に降りた頃には雨が止んでいて、少し後悔したが、時既に遅し。これから重荷を背負って沢を詰めて上まで行く雰囲気ではなく、さっさと下山。あっという間の一日だった。苦勞して背負い上げたビールはいったい…。

翌日はど快晴。ちくしょおお！ということで、美ヶ原の近くにある烏帽子岩に向かった。初めての場所だったが、スケールもまあまああり、ロケーションは抜群のところであった。5.10a くらいのフェースや、3 ピッチある岩稜を登って昨日の欲求不満を晴らした。

この岩場は、グレイドはなく、下部は岩が脆いという短所があるが、ロケーションは抜群なので活用すべきである。使える方法としては、

1. 体力トレーニングを兼ねてちやりで行き、岩トレ。
2. 前日の夕方に入り、上でビバーク。翌日早朝岩トレをして下山。1 コマに間に合う。
3. 冬壁のトレーニング。気象条件は結構厳しい。もろ西風を受ける。雪の降った直後に 1 のちやりの代わりにスキーを使い、2 を実践したら素晴らしい。冬の間、ここで生活して学校を来たら言うこと無し！最強になれるぞ！

錫杖岳前衛フェース北沢側フランケ「しあわせ未満」

7/23 横山 勝丘(4) 松寄 林太郎(4)

ふう、また錫杖か。なにせここのところ凄い。14は錫杖。15は烏帽子岩。17は小川山。18から昨日までは白峰三山でポッカバイト。そして今日。来週からはサマテンか。ああ、いつになったら院試の勉強をするのだろうか。…まあいいや!!! 考えている暇があったら山に行けてことだ。

月曜日の錫杖は静かで良い。貸し切り状態である。

1P目(25m, III, 横山)

簡単。ピレイ点はナッツで作る。

2P目(35m, A1, 松寄)

トボにはフリーで、とあったがエイドで行く。結構時間を食う。ハング下のテラスまで。

3P目(20m, A2+, 横山)

核心の大ハング。記述通り、ピトンは半分しか入らないが、よく効いている。立岩に比べたら簡単だ。途中フックを使ったりしてなかなか面白い。このピッチはなかなかの高度感である。銀河鉄道から別れて左上する部分は、クラックが更に細くなってきて怖い。最後のピトンのところで何を血迷ったか、タイオフなのにピトンの穴にフィフィを掛けてしまった。その瞬間、抜けた。手前のピトンで止まったが、大失敗。あまりにも馬鹿馬鹿しい落ち方であった。大反省。情けない。基本には忠実であるべし。そこからは簡単なカムのかかけかえでボルトが一本打たれたピレイ点へ。ここも、自分で支点を作らなければならない。こういうスタイルは素晴らしい。近くにクラックがあるのにボルトを打つのは、例えピレイ点といえども薦められるべきものではない。

4P目(35m, IV A1, 横山)

2・3P目で時間を食ってしまったため、ここからは横山が2Pをつなげて登ることに決めた。出だしは簡単なクラック。オフハンドのクラックを越えるとスラブのフリーとなり、右。立木よりクラックをエイドで越え、またスラブをフリーで突入する。ここはランナウトするので注意。最後の今にも剥がれそうな垂直の草付は怖い! 下のランナーはしょぼい。でも正直ここが一番面白かった。ここを越えると藪となり、立木でピレイ。

後はノーロープで左方カンテ最終ピッチ取付まで行って終了。

ここから1Pの懸垂で左方カンテの大テラス。大テラスからは、今回初めて注文の多い料理店を懸垂したが、50m2Pで下まで下りられる。左方カンテを登った際も、ここを使って懸垂した方が良い。左方カンテは後続パーティが多いし、木に引っかかったり、落石が怖かったり快適ではないが、こちら大丈夫だ。支点もすぐわかるし、しっかりしている。

しあわせ未満は特に印象に残るルートではないが、3P目はなかなか楽しめる。また、ピレイ点を自分で作るところが気に入った。ピトンスカーは少なく(激しいのはあるが)、まだ再登も少なそうだ。早いうちに試してみたいかでしょうか。

夏の縦走 『黒部源流を釣る』

今回 僕はどうしても釣りがしたくて、1年生と半ムリヤリ釣りに
率を貰わせ、黒部源流へ足を踏み入れた……

8月6日

7:30 黒部ダム 発
10:30 内蔵助平
2:00 真砂沢口 T.S.

メンバー
佐藤 祐樹(L)
高谷 英太郎
井上 あゆみ

夏合宿と同じ行程の今日、適度な
ジョギング。夏合宿はこれ以上か。ウー。ウー。

8月7日

9:00 T.S. 発
12:30 剣沢小屋 T.S.
剣沢雪渓の視界が悪くて、晴れよを待つ。今日中に剣ヶ沢
への10分が時間で余裕が分いたので明日にしたら、さぞく日遅れは
なってしまう。ヒマなので剣沢のボウリングで遊んだ。11月11日
以外とおもしろい!!

8月8日

9:00 ~~黒部~~ T.S. 発
8:00 剣山頂
11:30 T.S. 着
剣山の じょう滞と考え、早めの出発をしたものの、考え同じくした
人が多く、じょう滞に巻き込まれては、た。山頂では、苦痛に
持ち上げられた人々といろいろの人々に命じた。みんなとてよろく
人でくられて「かおりに」とフードの糖やらパンやらたくさんもらった。
ひまひまに 11:30 にしてアニーという命令になった。しかし30分
某月、各のあそ山には行かないほうがいい。"テマ110-7 剣山"のよう
だった。剣山は遊園地じやない!!

8月9日

5:00 T. 彦, 薨

8:20 大倉山.

13:00 五色ヶ原 T. 彦.

天気が悪... 楽しみにしてた立山への12... 7/!!

8月10日

5:00 T. 彦, 薨.

9:30 平のシ渡.

15:30 奥黒部ヒュン T. 彦.

今日は黒部ダムにて初釣!! のリス"が、五色のテニ"場
11時"に"を"おた"にも平のシ渡で"釣"付"き、"佐藤"が"11"を
11"と"り"に"帰"った。"舟"を"待"つ"た"11"が"く"り"釣"り"を"子"は"り"
が"そ"の"み"か"11"で"小"1"時"間"ぐ"ら"い"しか"釣"り"が"て"ま"ひ"か"ら
"し"か"も"釣"れ"な"い"...

8月11日

3:30 T. 彦, 薨

10:30 赤井岳

17:30 雪の平 T. 彦.

今日が"核心" "読売新道". 赤井まで"は"よ"から"下"ま
の"ま"を"から"1"年"生"に"下"は"じ"ぬ"き。"佐藤"の"み"も"い"ろ"い"キ"か"く"
"に"も"反"応"し"て"く"れ"る。"悲"しく"な"つ"た。

8月12日

10:00 T. 彦, 薨

1:00 高天原温泉

14:00 T. 彦 着

黒部を釣る!! のか今日であった。しかしあんなに雨...
話"ま"て"温"泉"に"行"く"こ"と"に"し"た。"温"泉"は"い"い"!! た"づ"て...
"う"っ... "う"っ... 釣"り"も"い"い"か。"温"泉"も"ま"た"よ"し。"捨"て
"る"神"あ"れ"は。"捨"う"神"あ"り"!!

8月13日

5:00 T. 登

8:00 三保蓮華岳

15:00 槍ヶ岳山荘T. 登 → みた"乗越"

や、と山荘たついたと思、たか、テニ場かみ!! 町に"11人" 張る場所かみ!! のた。 ~~みた~~ みた"乗越"にあるサニテン かし。

場をいある人に教えられ、とにこーと。 釜み盆たはもう 大体行かみ。 槍の肩から槍の山頂まで人々のる。 まるでアリのようた、こみみの山じかみ。み。

8月14日

5:00 サニT. 登

11:00 北穂高山T. 登

やれやれまたもや人のる。 大キシ、トモ町"からた。

8月15日

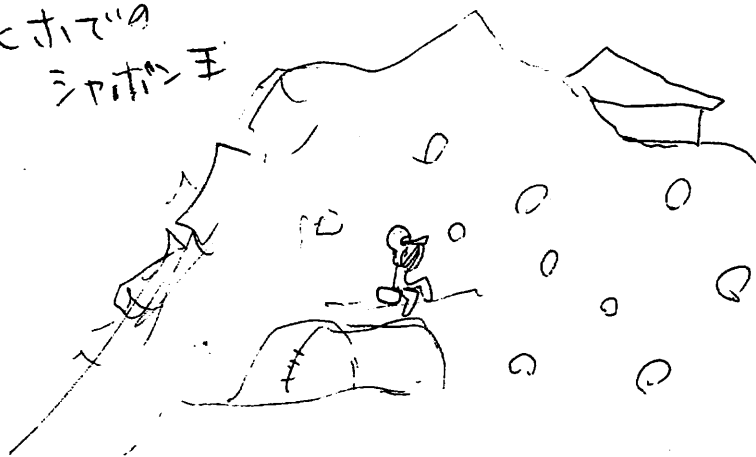
5:00 T. 登

8:30 前穂高山

13:00 サニテン!!

や、は、の、サニテンは、1111!! サニター!! サニテンバンボーイ。

北ホでの
シャボン玉



山行として
は失敗したが、
1年生ととれ行っ
た山々は楽しかっ
た。来年こそは...
爆釣山行だ!!

縦走合宿の反省・感想

初日、真砂沢までカンカン照りの中を歩いたのが、とてもつらかった。しかし、夏合宿では同じコースをこれよりもずっと重い荷物を背負って歩くのかと思うと、これまで真剣にトレーニングしてこなかったことを大変悔やんだ。内蔵助平を過ぎた辺りで股すれの痛みにも耐えられなくなってきた。ガニ股で歩いたり、ガムテープを貼ったり色々やってみたが、一番良いのはテーピングを貼ることだった。伸縮性があってよい。靴すれの心配はなくてもテーピングは要ると感じた。

視界が悪い時、特に雪渓上ではよく道が分からなくなったので、地図を見ること、天気図を書くことの大切さがよくわかった。ただの重りになりかかっていた地図やコンパスも大分扱い慣れたが、疲れて余裕がなくなるとどうでもいい気分になってしまう。これも体力不足のせいだろう。また天気図はこれまで完成度ばかり気にしていたが、そこから様々な情報を得たり予測を立てたりする方に重点を置かなければならない。

北穂高岳や涸沢岳周辺は危険な場所が多く、時々離れた所から「ラク、ラク!」と声かしていた。落石を起こさないよう、自分が落ちないようこわごわと歩き、精神的に大変疲れた。石を落とさなかったのは何よりも良かったが、安全にかつ普通の速さで歩けるようになりたい。

言われていたとおり、歩いてなんぼの合宿でした。
はじめて10日も山にこもり、はじめて足がぶやけました。
はじめて風呂に10日も入らなかった。
それにしても釣りと温泉は良かった…

井上 あゆみ

縦走合宿を振り返って 高谷 英太郎

出発前僕はとても不安であった。何が不安であったかという、九日間も山を縦走するのは初めての経験であったし、果たして上高地まで歩ききれののだろうかという不安であった。しかしその反面楽しみな部分もあった。北アルプスを代表する名山である剣、立山、槍、穂高を一度に登ることができるのがそれであった。

ここでは、九日間、最終的には十日間になったわけだが、印象に残ったことを書いていこうと思う。扇沢駅でジャンボさんの見送りを受けて僕達の合宿はスタートした。一日目は真砂沢までの行程であった。この行程は縦走合宿後一週間後の夏合宿でも歩く行程であった。この時の荷物の重さは三十四、五kg位であったと思うが、夏合宿ではこれ以上の重さの荷物を持って歩くと思うと正直気が重かった。二日目の行程は真砂沢から剣沢小屋T. Sまでの雪渓登り。この日は少しガスっていた。三日目はいよいよ劔岳登山。この日は朝相当早く出発したにも関わらず、劔への登山路は行列で、思ったより時間がかかってしまった。しかし頂上で食べたスイカの味は格別なものであった。四日目は剣沢T. Sから五色が原まで。立山では頂上のほとんどを巻いて殆ど頂上には立たなかった。五日目は五色が原から奥黒部ヒュッテまで。ここではポールを五色に忘れてしまい平の小屋から五色まで佐藤さんが走って取りにいてくれた。六日目は読売新道を通して雲ノ平まで。この日は十五時間行動、とにかく疲れた。七日目は高天原温泉に行った。久しぶりの入浴、とても気持ちよかった。八日目は雲ノ平から槍ヶ岳肩の小屋T. Sまで。ここでは夕食後に天場を追い出され大ばみ岳山頂にテントを張ったが雷が来そうだったので、結局飛驒乗越にテントを張った。九日目は大キレットを通して北穂T. Sまで。大キレットはさすがに怖かった。十日目。奥穂、前穂に登り上高地に下山。下山後のビールが感動的にうまかった。

こうして十日間の合宿が終わったわけだが、反省点としては体力をつけることと天気図を書けるようにする事が挙げられる。最後に十日間一緒に過ごした佐藤さんとあゆみに感謝したい。この合宿では山で協力し合うことの大切さを学んだような気がする。

上戸縦走 (大岳～水晶岳～笠ヶ岳～上高地)

期間: 8/10～8/16

X>バー: 横山輝生 (Knock 4年) 片寄哲生 (1年) 牛田光昭 (1年)

8/10 (金) ①～③ 称名平～大岳～室堂

3:30 起床 ～ 5:20 出発 ～ 8:45 大日平山荘 ～ 12:15 大日小屋
12:45 大岳 ～ 15:20 奥大岳 ～ 18:00 雷鳥平下り着

前日に松本～富山～立山駅～称名平まで電車でのんびりと移動。
3人で7時頃の称名滝を眺め小沢に入る。

翌日いよいよ縦走へ出発。大日平周辺は木道が走り、いい所。
大岳で雨が降り出す。サッパリという重く感じられる。牛田は
がたがたというたたがたの足音を歩いてもう。奥大岳を過ぎた辺りで暗水同
がのたつき、剣が顔を見せる。谷を狭くして対岸には室堂の台地が続き、
なかなか壯大な眺めだ。暗くなれかけた頃、ようやくテニ場に着く。
この日が縦走中一番きついな日に感じられた。

8/11 (土) ④～⑥ 室堂～一越～五色ヶ原

5:30 起床 ～ 7:00 出発 ～ 9:20 一越 10:00 雄山 ～ 12:00 龍王岳
15:50 五色ヶ原下り

朝起きると、曇りちのいい天気。一越までぶらぶらと歩く。雄山へピストン
には行かない。さすがに人が多い。寝食を僕らは頂上にも踏み出す。向うの剣を
眺めてささ下り。五色ヶ原で景色を楽しんで、はずたが、やはり雨
がズレた。牛田にも見えない。3人でまたまた長い木道をたどる。ささ
さ言いながら歩き、テニ場着。

8/12 (日) ⑦ 五色ヶ原～平の渡し～奥黒部ヒュッテ

3:30 起床 ～ 5:10 出発 ～ 9:35 平の小屋 ～ 13:05 奥黒部ヒュッテ下り

予想通り今日もガス。五色ヶ原の景色は何も見えずに通い過ぎてしまい
悲しかった。牛田のペースも上りきり、一安心。片寄と二人で平の渡し
で乗る舟を予想して、期待をぶくす存在が下り。編笠をかぶった舟頭
さんにはなかなか船の上は気持ち良かった。

テニ場では、明日の行程をやたらと気にする牛田と、全く考えずに、牛田
片寄が対照的で面白かった。2人を足せば丁度いいのに。縦走中
1人で考えていた。

8/13(月) ① 奥黒部～水晶岳～岩菅乗越

3:20 起床～4:50 出発～8:50 稜線上へ～11:15 赤牛岳～15:10 水晶岳
～16:00 水晶小屋～16:50 岩菅乗越 T.S.

2:30に起きるつもりが、不覚にも1時間おぼろ、やはり合宿でもないのに2時
に起きるのは無理な話。この縦走の核心と思われる読売新道へ。
赤牛(中)と赤牛岳へ登る。早くくだらない事を考えながら登る。葉跡を横に
見ながら喉調に標高をかきき。赤牛岳へ。赤牛～水晶は遠く感じられたが、
終日天気が良く、おさりと抜けた。本来なら雲1平経由で三俣へ向かう定
た話が、急地でもサマテンに下りたがたのし。カーと温泉に入る所。将来に
しておこうという事で、雲1平はカットする。岩菅乗越にT.S.いい場所が
たので、ここで行動終了。晴れたので久しぶりに外でエッセンをする。

8/14(火) ①～④ 岩菅～三俣蓮華～双六岳～秋久平

4:30 起床～5:50 出発～7:35 三俣山荘～9:15 三俣蓮華～11:00 双六岳
～11:55 双六小屋～13:35 大2乗越～15:00 秋久平 T.S.

三俣山荘では今年の冬の件のことお話しに、一併瓦をかりて、伊藤さんに
直接渡す事ができ、ホッとす。三俣～双六間は槍を真正面に見ながらの行程
で、その縦走路らしさに感動した。ここら辺を晴れた日に歩いたのは初めてだた
ので、その手拭い鎌へ行きたくなっていた。大2の辺りで雲行きが怪しくなる
夕立ちが頭にはちかんだが、その通りで、秋久平で大雨に突いたら、水に
逃げ込んだ。T.S.の中もポール状態になり、3人ともぐらりという感じだった。

8/15(水) ①～④ 秋久平～笠ヶ岳～新穂高

4:00 起床～5:15 出発～8:25 笠ヶ岳～11:35 電鳥岩～16:30 新穂高温泉 T.S.

笠ヶ岳の一本道は、中田がやたらと飛ばし、片寄は半バテになる。笠の山頂は気持ち
良く、差し木のこさを広げ、シホン玉を吹き、3人で1時間程寝ころんだ。
この後、川筋の頭から少し降りた所で、やはり大雨につかまる。雷雨になり、3人で
1/2ルートを越えて、やり過ごす。7リヤ谷の下降はだらだらと長く、前半飛ばした
せいか新穂高に着いた時には、1年生2人はかなり濡れていたようだった。
でも明日の奥黒部への登り返し。槍見温泉で凍水と一週間の汚水を取
り、屋根付きのバス停を占拠して最後のエッセンを楽しんだ。
余った食料をあらかた喰い、米を1合炊いたが、さすがに食べきず。
最後サマテンでペリランとカーボンにして何か食べた。

縦走合宿を終えて

1年 片寄哲生

観光気分の入り混じった、初の電車を使わず山行出発となった。立山までこれも初めて通る路線。時に岩肌が目についたは、ノックさんと岩登りの話になったりした。初日は本当に明日入山かと思われるほど下界下界しており、称名滝での夕食でスイカの食りにごきが起こった程度であった。

山行中、丸、きりバテたことはなかったものの、あと一歩というところと、テン場についてからの動きがノロくなっていたり、体力の未熟さは言いようがない。でも、それを常にサポートしてくれた超ドテカレーションには感謝である。やはり本ごとの楽しみである。

心に残った場所は、雄山からの一望。読売新道を越えたの赤牛岳。黒部源流。枚父平。笠が岳、その下り。槍見温泉。上高地サマテンへの最後の道のり。今振りかえせば、一瞬であるのに、長く延延としている岩場や、容赦ない下りには心底まいった。また、決してこちらの思い通りにはなってくれない天気のこと忘れられない。山は、登れば登る程、自分の小ささを実感させてくる。今後、どんな山の顔が見えてくるのか、一つの楽しみとなるはず。それに対してどんな顔を向けることができているのか。自分にかかっているわけか。



錫杖岳前衛フェース開拓

9/17～23 横山 勝丘(4) 佐藤 祐樹(2)

自分で自分の納得のゆくラインをひきたい。いつしかそう考えるようになっていた。特に理由などなく、ただ単にそういう欲求があった。付け加えれば、「自分で自分の納得のゆくラインを引く」という行為は最も山登りの本質を捉えているような気がしていた。それは岩でも雪山でも尾根でも谷でも、有名な山でも秘境でも同じ事だと思ふ。どの岩場も縦横無尽にルートが存在し、もはや有名な岩場では新たなラインをひくことなど不可能に思われるかもしれない。しかし、そこは想像力と創造力の問題で、あとはそれを支えるための体力、技術、根性を身につければ良いのではないかと、自分たちでもどうにかなるのではないかと、思った。ただし、「自分の納得のゆく」、これだけは守ろう。一年間温めてきたことだ。こんな事、たいしたレベルでもないのだろうが、まあ、今まで自分がしてきたことの蓄積が一つのラインで表現できるのなら、レベルは低くてもそれはそれで良い。

もう一つ、単純な対抗意識。岸本さん、ポンドさんはマッターホルン北壁、花谷さんはローツェ南壁、歳に近い、身近な人が自分のしたい山登りをしている。自分も自分のしたい山登りをやる。そして、やっぱりレベルで負けたくない。がきんちよの思考。海外には行けない、ならば国内で納得のゆく山登りをやる。大いなる自己満足！

場所は前々から錫杖と決まっていた。錫杖は明るく、岩も固い。自分が初めて行った本チャンも錫杖だったし、この上なく好きな岩場である。アプローチも近い。言うこと無し。その前衛フェースに見事に走る白い壁。威圧的で、美しく、そして最も目立つ。加えて、烏帽子岩と本峰にもルートを開いてしまおう。三本を継続すれば無理なく楽しいラインが引けるだろう。無謀にも三部作を企てた。パートナーは二年生の佐藤。奴の最も期待出来るところは、度胸の良さである。申し分ない。経験、技術等はまだまだ未熟だが、呑み込みのよさと根性で乗り越えてくれるだろう。

夏合宿が終わり、佐藤は実習、僕は研究室の手伝いなど、お互い忙しく動き回った。僕は出来る限りフリーに登り込んでおきたかった。しかし、なかなか時間の都合がつかず、ちょっとジムで登るしかなかった。エイドであろうと、フリーの力量の有無は大変重要な問題である。基本的にエイドはフリーでは行けないところを登るために仕方なく使う手段であり、近年、エイドそれ自体の面白さを見出され、エイドルートも人気ではあるが、やはり、フリーをさしおいてエイドから入るのはちょっと筋が違うと思う。そんな偉そうなことを言うほどフリーは登れないが、少なくともそういうスタンスで登りたい。16日、準備を整える。ビレイブランコはなかなかの出来。モチベーションが上がる。

機は熟しただろうか？無謀ではないか？まあ、やれるだけやろう。やって駄目ならそれまでだ。「ぐっどちよぶ！」そう自分で言えればいいな。

9/17 槍見 810～1030 錫杖沢 B.C1130～1200 取付 1220～1715 3P 目途中～1830 取付

朝、松本を出る。槍見で荷物をパッキングし、いざ出発！と思いきや、あまりの荷物の重さに閉口する。50kgを越す荷物はさすがに厳しい。いつもなら1ピッチで着いてしまう

錫杖沢の出会いに倍の時間をかけて辿り着く。今回はもう少し高度を上げて、錫杖沢の岩小舎にベースを置くことにした。このベースはいたって快適である。身の回りの整理をしてから FIX を張りに出る。下から見上げて、ラインは白壁の左端を直上する凹角とリスに決めた。既成ルートを2ピッチ登り、箱型ハング下のビレイ点へ。さて、いよいよ始まりだ。しかし頭上の箱型ハングの下をかすめて遙か上までボルトが延びている(後で調べたところ、白壁カンテルートというルートらしい。)。僕らが考えていたラインとほぼ平行している。そりゃ、昔の人だって白壁は登りたくなる対象に当然なるだろう。しかし、僕はこのラインをすでに気に入ってしまっていた。しかたない、平行してもいいからそこを登ろう。ボルトは無視すればいい。前進用、プロテクション用にボルトを使うことは絶対に避ける。ラインの独立性はないが、ルートとしての面白さ、難しさは損なわれることはないだろう、そう考えて登り始める。7mほど進み、浮いた音のするフレークから右の赤い岩の凹角までフリーで登る。嫌らしいフリーで凹角まで辿り着くと、全くリスが無くなってしまった。何とかピトンを打っても、モリモリと岩が浮いてくる。さて、どうしたものか。直上するにもピトンは受け付けない。ましてや初っ端からマイクロピトンやコパーを使う気にもなれない。右のワイドクラックへフリーのトラバースも試みようとしたが、あと一手が出ない。そこで30分以上も悩んだ挙げ句、仕方なくフレークまで戻ることにする。しかし、登ってきた時はフリーで来られたものの、下の支点が信頼できないため、フリーで下りるのをためらう。さらには、今ある支点にあぶみをかけて下りてくることさえも怖くなってしまった。臆病虫にとりつかれ、過剰に支点を打ち足してエイドでやっと戻ることが出来た。さて、左上には綺麗なコーナークラックがある。そこしかないだろう。10cmほどの岩棚にフックとアングルで左トラバースし、そこからフック2連発で何とかクラックにキャメロットを決める。ここでほっと一息。時間が無いので今日はここまでとする。この日はさっさと飯を食い、と言いたいところだが、何故か二人で食いしごき。全く成長しない二人であった。

9/18 B.C530~ユマーリング 615~800 登攀開始~1500 4P 目終了点 1520~1650 取付

寝坊。昨日一日で結構疲れている。おいうちをかけるようにきついユマーリング。あーしんどい! 天気が良いのが何よりの救いだ。昨日のポイントまで進み、登攀開始。徐々にクラックが細くなり、小さなハングに突き当たる。ボルトはここから直上している。ここは右にトラバースして問題の赤い岩の凹角に合流するしかなさそう。このトラバースが結構いやらしい。なんだか浮いたような岩にナイフを決め、微妙に乗ってから凹角にバードピークを打ち込む。打ち込むというよりはフックのように引っかけるといった方が正しいかもしれない。しかし、意外によく効いている。相変わらずこの凹角は細いリスしかなく、仕方なくラープを打つ。初めての体験だとやはり緊張する。何とか決め、お次はコパーヘッド。慣れないせいもあり、時間をかけてしまう。ようやくスモールナッツやらエイリアン緑やらが決まりホッとする。ここで凹角はハングに吸収される。すぐ左は綺麗なクラックが続いていそう。しかしその左トラバースが厳しい。ハングはオフィズスっぽくなっており、奥にキャメロット#4を決めるのに苦労した。このピッチ最も苦しいところ。あぶみに乗っているのに非常にフリーちつく。何とかトラバースを終える。ちょうどロープは25mで、あと10m伸ばせば既成の終了点があるのが見えたが、いかんせん屈曲が激し

いため残置ボルト1本とエイリアンでピッチを切ることにした。ここは、非常に美しいコーナークラックの走ったランペの下にあたる。クリーニングの佐藤を待つ。見下ろすこのピッチは下から見るよりも傾斜は強く、前傾している。なかなかかっこいい。しかし、見上げる上部はそれ以上にかぶっていて、凄く威圧感である。ここで佐藤と交替し、すぐ上の残置ビレイ点まで行ってもらうことにする。クラックには古いハーケンが打ち込まれているが、どれも手で抜けてしまう。そこにはナッツがよく決まり、快適な登りである。この残置ハーケンはほとんど回収した。このピッチはハンマーを使うまでもないだろう。簡単だが、なかなかおいしいピッチ。ビレイ点は非常にしっかりしており、そのまま使わせてもらう。今日はここまでとし、FIXを張って懸垂で下りることにした。降りる前に上部を観察しておく。白壁にはど真ん中によく目立つハングがあるが、その左端から3本並んで奇麗な凹角が上に向かって伸びている。ボルトはその更に左を直上しており、そこはボルトとは違ったラインどりが出来そうだ。その凹角に入るまでの10mは、ビレイ点のすぐ左の一段上に凹角があり、何とかつなげられそうであった。一安心して懸垂に入る。実は今朝、ユマーリングで一本のロープを傷めてしまい、二人は非常に臆病になっており、このピッチは振られるし岩角が多かったので、何とビレイ付の懸垂を行なった。この日を境に二人のあらゆる物に対するセルフは、岩ごと支点がもぎ取られない限り安心、というくらいにまでエスカレートした。

9/19 B.C510～ユマーリング 545～830 4P 目取付～1700 4P 目終了点 1730～1830 取付

快晴。好天は大きな救いだ。今日中に上まで抜きたい。上でのビバーク覚悟で取付く。4P目終了点まで朝一番のエクササイズで登り返し、5P目の準備をする。今日は、その次のピッチが厳しそうだったので、まず佐藤が5P目をリードすることになった。出だしは終了点左の壁にある、いかにも「フックをかけてねっ！」といわんばかりのカチにタロンをかけることから始まる。非常に簡単で快適なフックムーブであるが、何しろ凄まじい高度感でのムーブであるために、キ〇タマが縮みあがりそうである。僕は大きく日本のエイドルートを登ってはいないが、恐らくここは日本最高のフックポイントであると見た!!!それはさて置き、そこから先が何も無い。ピトンのタイオフとタロンで左の凹角にはい上がった方がいいが、そこから全く進まなくなってしまった。ビレイ点からは傾斜が緩く見え、「フリーで行けるんじゃないの?」などと、全くの他人事であるが、実際の傾斜は垂直。加えてピトンも何も受け付けない。あれこれ2時間も食ってしまい、「交替!」。ローダウンで降ろし、交替する。一本よく決まっているナイフからが厳しい。コパー、ラープ、バードピーク、スモールナッツ、バードピーク、コパー。ここまでで既に厳しいのに、この期に及んでカムが決まるクラックに達するのにもう1ポイントフックに立ち込まなければならない。かかっているポイントは全く見えず、浅いということだけは分かる。徐々に体重を乗せてゆくとフックがこころなしか伸びる。この瞬間が一番怖い。呼吸を忘れ、体がわけもなく硬くなる。力を入れたところで無駄な抵抗でしかない。その瞬間の運命はフックが握っている。…止まった。急いでクラックにカムを文字通り押し込み、テストもそこそこに体重を預ける。この瞬間、ようやく硬直から解放される。訳もなく疲れている。全く馬鹿らしい。そこからしばらくは快適なエイドだが、やはりそう簡単には楽をさせてくれない。またクラックが細くなってきた。仕方なくラープ、コパーを打つ。かぶっている上に

非常に狭い凹角、というよりはV角であるために、体は外へ外へと吐き出される。くそっ、コパーを引き抜く方向じゃねえか！しかも連打ときたもんだ。ここまで来たらもう慣れとか麻痺とか、とにかく度胸がすわってくる。目の前にあるその支点を信じるしかないのだから話は簡単である。それにしてもいまいましいボルト。自分のすぐそばで悠々と笑っているみたいだ。使いたくなるのをぐっところえる。細かいクラックにマイクロナッツを決め立ち込む。乗ってしばらくして、岩が欠ける。体の位置が少しずれる。また体が凍る。ナッツは何とか持ちこたえる。早く！次、つぎ！必死に探す。こんな時に限って5mmくらいしか入っていないへんてこりんなナイフしか打てない。それでも一応セルフをとる。次の瞬間、岩が欠けた。しかし何とも拍子抜けするような落ちかたで、何の恐怖もなく、下のコパーでとまった。なんだ、コパーって効くじゃん！しかし、指を切ってしまった。一気に戦意喪失。「畜生！」大きな声で言いたくなるが、この最大の緊張を強いられる空間において、自分を鼓舞するだけの気力もなく、「うー」「あー」を繰り返すだけ。時間も時間だし、ピッチを切ることにした。落ちたナッツのところにもう一つコパーを打って、その上のボルトの横にもう一本ボルトを打ってビレイ点とし、ようやく長い緊張から解放された。5時間。佐藤もあわせると7時間。たった25mで。自分の実力の無さを思い知らされる。出だしの15mのみ佐藤にクリーニングしてもらい、懸垂を始める。基部に着いた時には既に辺りは真っ暗。今日中に上まで抜ける？論外であった。ベースに戻り、ようやく落ち着いてから、これからのことを話し合う。とりあえず前衛フェースだけは何としても完成させたい。このルート一本に絞ることに決めた。それにしても…厳しい。はっきりいって今の僕には技術的に今日のピッチくらいが限界のように思えた。もう登りたくない、という気持ちには全くならないが、これ以上あんな緊張は無理だろう。体力も想像以上に使っている。佐藤との会話で、もうあそこから先はボルトをたどって上まで上がってもいいね、と弱気な発言が出た。この時は弱気でもなんでもなく、もう十分満足、本心からの発言だった。とりあえず明日は休養しよう。体力が資本、回復すればもう今度は上まで抜けられるだろう。

9/20 休養～B.C1400～取付1430～1530 大テラス

天気は良いが、何もせずボーっとする。ゆっくり体を休める。たまに壁を見上げては見入ってしまう。昨日の弱気はどこへ行ってしまったのだろう。ボルトではなくて、右の凹角を行きたい、行きたい…。そう思っているうちにいつしか「行ける」。見事に変わっていった。単純だ。今度こそビバーク覚悟で抜けよう。今度逃したらもう無理だと思った。午後、基部に向かう。大テラスでビバークし、明日夜明けと同時に出れば何とかなる。明日の天気は雨。そうなったらその時考えればいい。できる限りのことはしよう。テラスで星を見ながら朝を待つ。

9/21 B.P520～登攀開始800～1130 6P 目終了点1400～1830 終了点2000

朝。まずまずの天気だ。急いで昨日の終了点まで登り返す。佐藤が回収を終え、6P目に突入する。ボルトは左に延びている。進むのは右だ。リミットの時間だけ決めて登り始める。上の水平クラックまでは10m弱。そこまでコパーの連打が続く。もう慣れた。一昨日とはうって変わってスムーズだ。水平クラックからは、久し振りにボンバーなカムを決め左にトラバース。凹角の下にビレイ点を作る。クリーニングの佐藤を待つ。あと1ピッチ

で抜けられるだろう。傾斜も緩そうだ。不意にふっと力が抜け、薄笑いを浮かべる。いかんいかん、集中。そんな時は足下の空間を見る。すぐに緊張が走る。

7P目、佐藤が順調に登ってゆく。雨が降っている。しかしこのかぶった壁では何の心配もない。それでも意外と苦戦する。寒い。どんどん暗くなってゆく。「はやくしろよ！」大きな声で言ってみたり、独り言のように言ってみたり…。最後のクラックに泥が詰まっていた苦戦しているようだ。待つしかない。雨はどんどん強くなる。しばらくして、「オープン！」の声。やっと着いた。急いでクリーニングの準備をする。最後のユマーリングはあまったロープが下で引っかかったりと、苦戦する。ようやく傾斜が緩くなり、樹林帯が現れる。足で立てることを確認し、佐藤と握手。喜びや感動とかはあまりなく、ただ安堵感でいっぱいだった。すぐ寝ることにする。びしょ濡れだが関係ない。明日になればこっちのものだ。

9/22 B.P515～545 白壁ルート終了点 600～740 取付 750～800B.C

最悪の目覚め。ピバークの馬鹿野郎。まあ、下りてしまえばこっちのもの。ブッシュを潜いで小川山のような岩壁の基部へ。そこから右にトラバース 15m で見覚えのある立木に到着。後は慎重に懸垂をしてベースに戻る。寒いのに何故かうまいビール。日高さんに電話をする。ほっとしたところで二人揃ってシュラフに潜り込む。あとは深い眠りが待っているだけだった。

夢で壁にぶら下がっている自分が出てきた。つい昨日までの自分だ。なんてことのない夢。目が覚めて、あー自分は平らなところで横になって寝ているんだ、当たり前のことを思う。余程の緊張だったのだろう。エルキャブでもそんなことはなかったのに。安堵感。満足感もちろんあったが、やはり安堵感。一日中寝る。

満足感は翌日にやってきた。すっかり秋の空気が変わっていた。外に出て壁を見る。自分の登ったところをなぞってみる。ソクソクッと、今度は快感が押し寄せてきた。病気？あー、それでもいいや。快晴の空の下、本峰にハイキングをしに行く。山はいいな。素直にそう思えた。下りてきて、白壁を見ながら最後のビールを飲み干す。何度も何度も一本のラインを探しては、なぞった。単なる自己満足、ましてや記録としては価値のないB級品かもしれない。それでもなんだか心に刻み込まれるものがあるということ、それだけで満足だ。佐藤と子どものようにはしゃぎあう。一週間、あっという間の出来事だった。掛け値なしに楽しく、そして充実していた。「ぐっどちよぶ！」重い荷物を背負って下山する二人の背中に錫杖がそう声をかけてくれた(わけないか…)。

最後に、この計画を了承してくれた山岳会の皆に感謝したい。一昔前までは本チャンに行くルートでさえ限られていた。今こうして開拓を成功させることが出来たのは、皆が意欲を持って山に通ってくれたことによるところが大きい。これを機にますます意欲的な山行を実践することを期待する。そして、文句一つ言わずに付き合ってくれた佐藤に感謝したい。このルートの半分は佐藤のものである。開拓中、どんどん成長してゆく佐藤を見て頼もしく思った。そして精神的な支えにもなってくれた。一緒に行けてよかった。

どうもありがとう。

ルート名「体臭のカーニバル」

[230m, 7ピッチ, IV+A3, 2日]

ルートは北沢フェースのルンゼを箱型ハングまで上がり、そこからはおおむね白壁の左端部分を登る。ルートの大部分は白壁カントルートと交差、平行しているが、3P目以降は前進用、プロテクション用にそのボルト、ピトン等は一切使っていない。従って再登にあたっては残置のボルト、ピトンはビレイ点以外、一切使用しないでいただきたい。それがエイドクライミングのルールである。なお、ルート上にコパーヘッド等をいくつか残置した。これらの残置は使用していただいて構わないが、必要ないと思われれば引っこ抜いてもらって構わない。

1P目 (45m, IV+A1)

広場のと真ん中を突っ切るルンゼを登る。左方カントの一つ右。最初の10mはノーロープで左上するランペを登り、立木から始める。ランペからフェースを人工。ルンゼの抜け口が少しいやらしい。ルンゼは濡れていて快適ではない。頭上の終了点まで来れば後は簡単なルンゼから階段状のフェースとなり、大テラスにつく。

2P目 (25m, IV+)

1P目より続くルンゼを直上。簡単。なかなか面白い。箱型ハング下のピトンが打たれた終了点まで。なお、大テラスからフェースを直上するのは白壁ルートだが、このフェースは面白い。是非一度お試しあれ。

3P目 (25m, IV+A2)

ここより先、ビレイ点以外に残置のボルト、ピトンは使用禁止。ハングに向かってフェースを4mほど登る。ハングにカムを決めたら左端からハングをかすめて越える。このクラックは、いたって快適。最後、フレックが終わるところから、左の10cmほどの岩棚に移り、そこから頭上のハングの切れ目に向かってフックで直上。ハング右端のクラックを左上し、クラックが途切れたところからボルトは直上するが、小ハング下を右の赤い岩の浅い凹角に移る。ここから凹角をもう一つ上のハングに向かって直上するが、クラックは浅いので注意。ここにコパーヘッドを一つ残置。やがて凹角はハングに吸収され、ハングを左にトラバースする。ここはエイドだが、フリーの要素があり、要注意。奥にカムを決めるのが難しい。実力のあるパーティならいらないが、キャメロット#4が必要。トラバースしたところは綺麗なコーナークラックの走ったランペである。ここでボルトは途切れるが、最後のボルトとカムでビレイ点にする。なお、10m上のビレイ点まで伸ばすことも出来るが、流れが悪いのでここで切った方がよいだろう。エイドの中にフリーの要素があり、面白いピッチ。

4P目 (10m, A1)

非常に快適なピッチ。すぐ上のビレイ点までだが、なかなか楽しめる。ビレイ点まで上がると既に凄い高度感である。

5P目 (25m, A3)

出だしは、ビレイ点左壁にある、一目瞭然のフック。ルート中最高の高度感が味わえる。左のカンテ上にある浅い凹角に入ってゆくがここからが悪い。様々なギアを使って、顕著

- な V 角に入ってゆく。V 角は徐々にクラックが細くなり、また、傾斜が強くて掃き出されそうになる。すぐそばにはボルトが連打されており、思わず使いたくなってしまうが、我慢我慢。リングボルトが 2 本打ってあるのがビレイ点である。1 本は古いもので、もう 1 本新しく打った。ちょうど、白壁のど真ん中にあるハングのすぐ左である。開拓中、ここにボルトを打たずに上のテラスらしきところまで伸ばせば良かったかと後悔したが、結果的にはここでよかった。ただし、思い切りハンギングとなり、快適ではない。このピッチはルート中のハイライト。岩は非常に固く、また、綺麗に走った凹角や高度感など、ヨセミテを思わせる。ボルトが走っているのがたまにきずだが。

6P 目 (25m, A3)

ボルトは左に伸びているが、ルートは真上の凹角である。ここの凹角は 3 本並んでおり、わかりやすい。出だしロストアローを打つが、そこから上部に見える水平クラックまではいやらしい。じっくり進む。水平クラック下にコパーヘッドを 3 本残置した。水平クラックは非常に快適で、ここを左にトラバースするとすぐに、白壁カンテルートと交差するが、そのまま左にトラバースしてゆく。クラックが途切れたら上のクラックに移り、さらに左トラバースした凹角下に RCC とリングのビレイ点を作った。ここまで来ると幾分傾斜が弱くなる。流れが悪いので要注意。

7P 目 (35m, IV+ A1+)

出だしの凹角から真上のフェースを登り、岩を一段越す。ここから右に見える右上するクラックを目指す。クラックは泥が詰まっているが、掃除すればフリーも可能だろう。クラックを登り、最後は白壁カンテルートと合流するように樹林帯に突入。4m ほど行くとしっかりとした立木がある。

ここから樹林帯を奥の岩壁に向かって漕いでゆくと、岩壁下のテラスに出る。この岩壁は、小川山のようにすっきりとした花崗岩のフェースで、非常に面白そうだ。時間があればここも登りたかったが…。ここから右の際をトラバースすると、白壁ルートの終了点である立木に出る。このトラバースは意外といやらしく、落ちたら助からないのでビレイしていた方がよい。

後は白壁ルートなり 1 ルンゼなりを懸垂して下山する。

最後に、このルートはそれなりに楽しめると思う。グレイドもまずまずだし、岩の硬さや傾斜、ロケーションなどは最高であると思う。ボルトのすぐ側を通るのに、ボルトは使用禁止というのは、ある意味窮屈かもしれないが、そこは日本のエイドルートだということと割りきって欲しい。再登にあたっては、エイドクライミングのルールにのっとって臨んでほしい。また、それなりに時間がかかると思われるので、ビバーク装備の準備はしておいた方がよいと思う。パーティによってはポータレッジが必要である。なお、ルート中テラスは、1P 目終了点の大テラス以外ない。後の終了点は全てハンギングである。他に可能性があるのは、2P 目終了点の左の草付、6P 目の水平クラックに入るところのすぐ上にあるテラス (つばいところ)、6P 目終了点から 10m ほど懸垂したところにある快適なテラス (ゾディアックのピーナツレッジつばい) 辺りである。我々は実力不足から、コパーヘッドを大量に使用してしまった。また、打ち方も丁寧とは言い難く、非常に反省するところ

である。冒頭にも書いたが、必要なければ引っこ抜いてもらって構わない。コパーやピトンは結局岩を傷つけることになる。コパーを残置するか否かもいろいろ考えたが、もっとうまい人にコパーを使わずに登って欲しい。というのはわがままだろうか？

ともあれ、皆さんに楽しんでいただければ幸いである。ぜひともご意見、ご感想等聞かせて頂きたい。

-使用ギア-

ナッツ2セット、エイリアン{黒~黄}1{赤}2、キャメロット{#.75~#2}2セット
 {#3#3.5#4}1セット、オフセットフレンズ1セット(なくてもよい)

ヌンチャク7、フリーピナ30、安環付ピナ4、タイオフ用シュリング12

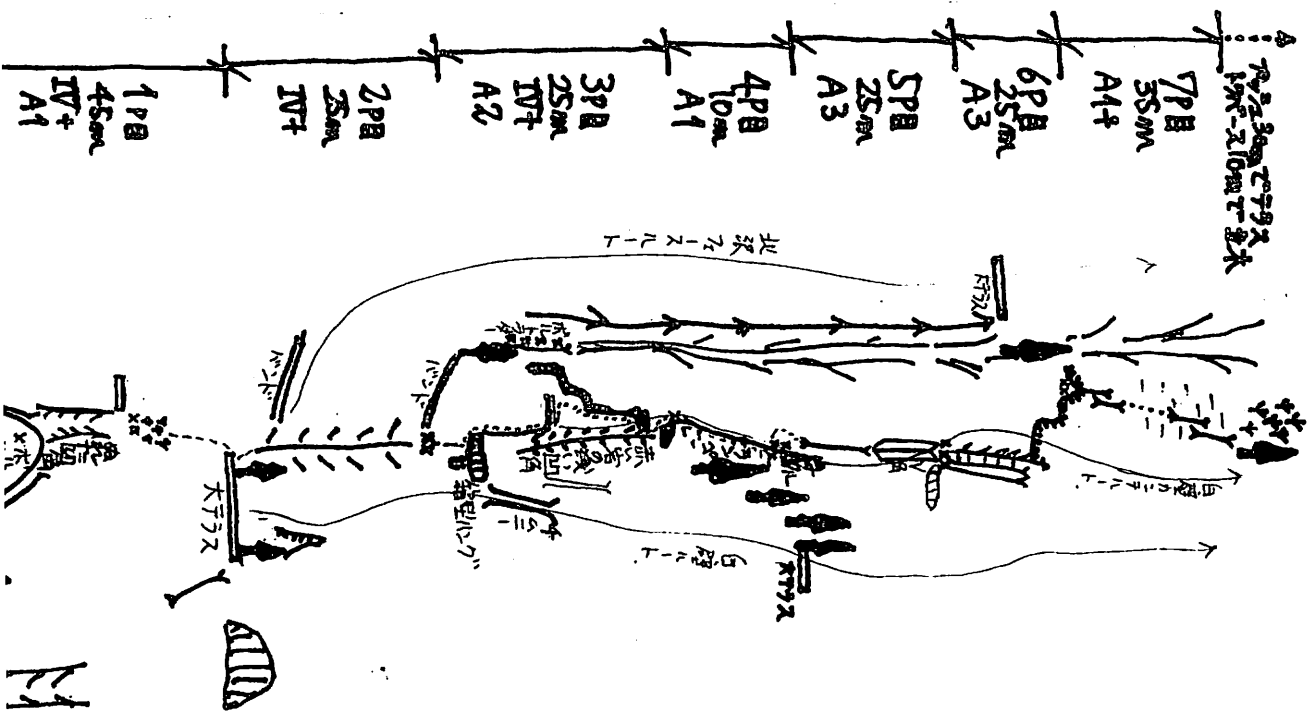
ナイフブレード10、ロストアロー6、アングル4、フック各種

バードピック2、ロープ2(これらはもう少しあった方がよい-使い回した)

コパーヘッド各サイズ各3~4、11mm50mロープ2、9mm50mロープ2

ビレイシート、リングボルト2、RCCボルト1、その他基本装備

残置は、5P目終了点にリングボルト1本、6P目終了点にRCCボルト1本とリングボルト1本、3P目6P目7P目途中にコパーヘッド計5本、7P目途中にナイフブレード1本(これは暗くて見落とした。すぐ抜けると思う)



錫杖岳開拓報告書

期間 七月十七日～七月二十四日 (7+1)

メンバー 横山 勝丘 (L)、佐藤 祐樹

日程

七月十七日 槍見温泉～錫杖沢 B.C.～北沢フェース取り付き～テラス

槍見温泉から相当なギア数を背負い錫杖沢 B.C.へあげた。極力軽量化したのだが、それも虚しく相当重かった。B.C.につきさっそく開拓に向かうことにした。1ピッチ目は既存ルートの北沢フェース沿いに行った。1ピッチ目終了点であるテラスから草付き凹角沿いに行き、ハング下で2ピッチ目終了。そこからリードの横山がハング脇をエイドでこえる。ハング脇をこえ2, 3mのところまで時間になり1 1mmFix ロープを1, 2ピッチに張り錫杖沢 B.C.へ帰る。

十八日 テラスまでユマーリング。リードは引き続き横山でひたすらかぶった白壁を順調に(?)越えていく。しばらくすると凹角沿いに5mほどのきれいなクラックが走っておりザイルの流れを考えそこの手前で終了点とした。そのクラックは佐藤がリードし、クラックの途切れたところにマニアックルート・白壁カンテの終了点につきここで短いながら4ピッチ目とした。今日はここで時間切れ。またフィックスロープを張り B.C.へと帰る。

十九日 昨日の終了点までまたユマール。そろそろ手にお豆ができてきた。終了点から佐藤がリード。しかし、意気揚揚で行ったものの2, 3m トラバースし上の凹角に出たとき意気消沈。極細リスが申し訳程度に続いているだけ。横山に交代し、唸り声を上げながら何とか進む。ここのギアはコパー、コパー、ラープなどやばい系ギアばかり、トラバースから7, 8mぐらいいったところでカムがきまりひと安心したところで終了点をつくり今日の開拓作業終了。いつものようにフィックスを張り帰路についた。

二十日 今日はさすがに疲れて休養。と思ったが B.C.からみえる美しい

錫杖岳につられて午後から行動した。今日中にテラスまで着いてビバークし、明日のための時間稼ぎをした。

二十一日朝さっそく取り付き、一昨日作った終了点まで痛い手を我慢しながらのユマール。終了点から引き続きかぶった壁をまたもやカバーコパーで登っていく。B.C.からみえるこの凹角はきれいに3本林立しておりその一番左側を登っている。錫杖で最も目立つ部分の一つであろう。凹角を登りきったところから左へ7, 8mのトラバースを終えて6ピッチ目終了。ここでやっとハングも終了しここから佐藤がリードする。ここまで結構な雨が降っていたようだが、ハングだったためあまり気にならなかった。しかし、ここからは雨に降られながらのクライミングとなった。6, 7mの凹角を抜けフェースに出る。ここはいいフックポイントがありバシバシきまる。フェースを左上していくと土つきのクラックにつく。土を掘りくじながら進んでいき、ブッシュ帯に入ろうというときに暗くなってきたがこの日ははなから抜ける勢いだったこととあと3mぐらいでブッシュ帯にはいることが合い重なり、暗闇の中のクライミングとなった。ブッシュ帯に入ると大きい立ち木があったのでそこで終了した。ここで震えながらのビバークをし、今日を終えた。

二十二日やっと夜が明けて、重たい体を持ち上げブッシュ帯を登って(歩いて?)行く。5mほど行った所でいいビバークポイントにつきもうちょっと行けば・・・と後悔した。ここを7ピッチ目としてルート開拓を終えた。白壁ルートの懸垂下降点を使い、2日ぶりのB.C.についた。この成功の余韻に浸りつつ、冷たいビールを飲み眠りについた。

二十三日ゆっくりおきて、今日は錫杖岳の山頂へ冬合宿の偵察ついでに行ってみる事にした。この日は前の日とうって変わって本当に雲ひとつない晴れであった。3連休の日曜日だったせいもあり人が多く、左方カンテで人が渋滞しているのを横目で見つつ山頂をめざした。1時間ちょっとで山頂につき、あたりを見渡すと、ひさび

さにその風景となんともいえない充実感に感動してしまった。偵察を終え帰る途中、左方カンテではまだ渋滞を起こしているの誰もない白壁をみて思わずはにかんだ。B.C.を足早にかたづけ、さっさと槍見温泉についた。温泉には「ご湯づくりどうぞ」との看板が貼られていて、今回開拓したルート名を時間のかかることをあわせてこのルート名にした。

感想

初めての開拓にしてはとても難しいルートを作ったと思う。幸か不幸か、登っているうちにお互いのレベルが上がっていることが手にとって感じられた。今回一番活躍したギアはコパーヘッドであろう。極細リスでマイクロナッツもきかなく、かといってピトンも全然入らない。こんなときコパーが役にたった。これがないと失敗していただろう。墜落には耐えられないといわれているが、結構効きがいい。ぜひ試してください。

それにしてもいい山行であった。あっぱれ、あっぱれ。



北岳バットレス 9/22~9/25

メンバー: 6 横山輝生(4) 梶原恵(4) 松壽林太郎(4)
高野英太郎(1) 井上あゆみ(1)

9/22(土) 10:00 松本 = 14:00 広河原 ~ 16:30 白根御池 B.L.

計画段階で誰も気づかず、3連休のバットレスへこつ込んだ。
広河原の駐車場は車でいっぱい。白根御池のテニ場はテント村状態だった。
しかし小屋の人もはじいのかテニ場代を取らず、ラッキーだった。

9/23(日) 3:30 起床 ~ 5:00 出発 ~ 6:30 取付き (Dガリー)

{ 横山 梶 井上 パーティー : 第四尾根
{ 松壽 高谷 パーティー : 下部 ~ 上部 フランク

15:00 頃 北岳頂上 集合 ~ 17:00 B.L. 着

混雑を予想して、暗い内にヘッドラップで取付け。取付けにはすでに2パーティークらいいたが、Dガリーには誰もいなかった。後ろから4.5パーティが続々と登ってくる。Dガリーからルートを取付きまでは落石にヒレヒレしながら登る。登り途中、前にも後ろにもパーティがいたが、幸い待つ事はなかった。2.4箱からは上部フランクを登ってきたパーティも混雑。混雑する。林太郎パーティは2.4箱で行列につかまり、少し遅れをとる。北岳頂上も人ごみになっていた。井上は初本番であったが、少し恐ろしいにしていた意外は落着いて登っていた。

9/24(月) 4:00 起床 ~ 5:30 出発 ~ 6:30 大樺沢二俣

{ 横山 梶 井上 パーティー : 八本薮の2ル ~ 北岳 縦走
{ 松壽 高谷 パーティー : 第四尾根

井上は調子が悪いので、登り人をやめ、のんびり縦走。高谷は登る気満々だったので、林太郎と第四尾根へ。この日も終日快晴。人も昨日に比べ、格段に少なく、気持ち良かった。

9/25(火) 4:00 起床 ~ 7:00 広河原へ下山

3連休はやはり人が多かった。ルートを取付くまで落石が恐ろしかったが、混雑は全く終りの良かった。夏の終りを感じた山行だった。



取付きにまだたぐ下、
唯がこつたのたぐうて、
くさい。相当。

1年生山行 燕岳～蝶ヶ岳

期間 10月6日～8日

メンバー 高谷英太郎 片寄哲生 井上あゆみ(会1)

10月6日

松本4:30～中房温泉6:10～燕岳11:00～大天荘14:50

川井さんに中房温泉まで送ってもらう。駐車場で体操をして出発。今回のルートは水場が最初の第一ベンチの水場しか無かったので、3人で20リットル上げることにした。話をしながら合戦尾根を歩く。合戦尾根は北アルプス三大急登という事だったが、思ったよりはきつくなく順調に歩を進める。天気も最高に良く快調な登り。そして、燕山荘に到着。ザックを置きレーションとカメラを持って燕岳ピストンに出発。燕岳山頂付近は奇岩が多く、足元も綺麗な白砂で歩いていてとても気持ちが良かった。燕岳山頂からの展望は素晴らしく、遠くには夏合宿でお世話になった劔岳も見ることができた。しばらくのんびりして燕山荘に戻り、再びザックを背負い出発。大天荘への道は、顕著な上下もあまり無く、展望を楽しみながら歩く。最後の登りを登りきって大天荘に到着。テントを張ってから、大天井岳へのピストンに向かう。ピストンから帰ってきておやつ作り。この日のおやつは、ニュークイックでもらった1キロの牛肉。鍋で焼いて食す。巷では狂牛病が問題になっているが、僕達には関係なし。食うこと命。おやつに続きエッセン。この日のメニューはキムチうどん。味は最高だったが、、、いつもの習性で作りすぎて1年生だけで食いしごき。19:00就寝。

10月7日

起床4:30～大天荘6:05～常念小屋8:20～常念岳9:40～旧蝶ヶ岳14:20～蝶ヶ岳ヒュッテ15:10

4 : 30起床。さすがに山の朝は寒い。いちを述べるが、テントは愛しのダンロップ。マカポテを食し、テントを撤収。天場からの槍・穂高連峰の眺めが素晴らしい。パッキング、体操をして出発。この日も、天気は最高。すがすがしい朝の空気の中を、常念岳に向かって歩く。そして常念小屋到着。ここからは常念岳への400アップの登りである。きついながらも気持ちの良い登り。一步一步着実に上へ上へと進み、1時間10分程で山頂に到着。松本市民としての責務を果たす。山頂からの展望は素晴らしく槍・穂高はもちろんのこと、松本の町並も見渡せた。あるおじさんから双眼鏡を借りて見てみると、ジャスコも確認できた。1時間半程のんびりして、常念岳を後にする。槍・穂高を絶えず眺めながら稜線を歩く。素晴らしい縦走路だとつくづく思った。旧蝶ヶ岳で一本とり、蝶ヶ岳ヒュッテに向かう。そして、蝶ヶ岳ヒュッテ到着。テントを張っておやつ作り。この日のおやつは、マカポテ。若いて素晴らしい。おやつに続きエッセン。この日もメニューはキムチうどん。昨日の反省を踏まえて作る。しかし、作りすぎはしなかったが、水が少なすぎて汁が殆んど無いうどんになってしまった。食べ終わってから3人で酒を飲む。いろんな話をしながら飲み、結局日本酒900ミリリットルと先輩から渡されたウイスキーとビールを飲んで、僕と哲生は不覚ながらも下界で飲んだとき並に酔っ払ってしまった。20 : 00頃就寝。

10月8日

起床4 : 30～蝶ヶ岳ヒュッテ6 : 00～三股8 : 50

4 : 30起床。焼きそばを食し、テントを撤収。パッキング、体操をして出発。この日は、三股への2ピッチ程の下りだけだったので気持ちも軽く、途中大学生らしく、世界情勢の話などをしながら下った。程なく三股に到着。そして、向かえに来て貰った川井さんの車で松本への帰路についてた。

今回は1年生だけでの初めての山行であったが、いい人にも出会い、3人で協力しあってとても素晴らしい山行になったと思う。山仲間って素晴らしい！哲生、あゆみこれからも3人でがんばろうな！！（文責：高谷）

上信国境 魚野川

期間: 10月6日 ~ 10月10 (3+2)

メンバー: L 松崎 (4) 権山 1.7 (4) 日高 (5) 岸本 (5)

10月6日: 4:30起床 ~ 5:25出発 ~ 8:50野反湖着 ~ 13:20入渓点
~ 14:45 + 大沢出合い ~ 15:30高沢手前T.S

前日5日に、野反湖へ行く予定だったのだが、先月の台風の影響で道路が崩壊していて、10km手前のゲートで通行止め。これを見て皆も4ベーションが下がり、一時は温泉でも行こうとあきらめた。しかし、冷静に考えると、エスケープルートの小ゼン沢を使えば十分通行可能であることに気づいて、引き返す。翌朝、道路を3ピンチ歩く。タライ... 途中岸本さんがヒザの故障で引き返すことになる。珍しい、入渓点までは紅葉の中縦走である。クマが恐いたため叫びながら歩く。おとこのこで入渓点に、魚野川はさらた悪場ないという記述の通り、快適な通行だった。この時期には暖かく、胸まで水につかる場所もあつたがたいしたことはなかった。この日は、高沢手前に幕営適地を見つけ、盛大にたき火をする。

10月7日 5:30起床 ~ 7:00出発 ~ 8:00黒沢手前 ~ 11:30小ゼン沢出合いT.S
今日の行程は短い、釣りをしつつ通行する。いくつものきれいたゼン(滝)を越えていく。美しい沢と紅葉に三人ともはしゃぐ。11:30には、目的地についてしまった。15:30まで釣りをする。成果は、5匹。今夜のオカズ... たき火・飯・みそ汁・日本酒と質素でせいとくな夕食を楽しむ。

10月8日 5:30起床 ~ 7:00出発 ~ 8:20二俣 ~ 9:20五三郎小屋
~ 10:30大高山着 ~ 12:30野反湖着

エスケープルートの小ゼン沢は、ザイルを出すことなく比較的傾斜もない。本当に源流まで水はしっかりと流れている。

五三郎小屋は、なかなかしっかりした建て物で使える。そこから、甘サ原の中を快適な縦走で野反湖へと向かう。

野反湖では岸本さんが待っていてくれた。

魚野川は、泳げず所がたくさんある。9月ぐらいが最適なのではないだろうか。しかし、水量が多いと危険な場所もあるので気をつけた方がいい。



10月8.9.10日

剣岳紅葉山行

↳ 大木 BOND・梶原 恵

・10月8日

- 5:00 松本
- 6:30 扇沢
- 6:50 黒部ダム 出発
- 12:30 十字峠
- 14:00 十字峠
- 15:50 阿曾原峠

初めての 下廊下。噂以上だ。
 あんたどろに 道を作った人々の
 すい。同時に黒部峡谷は人
 類を全く寄せ付けない場所だ。
 圧倒的なスケールに感動した。
 ここに道をひいた先人達のドラマと
 苦勞に感謝しながら阿曾原ダムまで

の道を紅葉を楽しみながら進む。

素人を連れているのは考えたのだが、ぜひ一度は行ってもらいたい
 お村めルートだ。阿曾原温泉お下るのが面倒だったのて
 峠お登り、テントを張る。

・10月9日

- 3:00 起床
- 4:00 出発
- 5:55 仙人温泉
- 8:15 仙人池
- 10:50 池の平小屋
- 13:15 池の平山
- 14:30 敗退決定
- 16:20 池の平小屋

憧れの仙人池で早朝撮影お
 たため3:00起床。稜線に登って
 初めて見た裏剣はまた絶景。
 バンバン撮りまくる。紅葉も美しい
 の一言だ。人生最高の紅葉だった。
 要所々々撮影しながらのんびり
 池の平小屋まで行く。

北方稜線にトランスして行け
 る道があるとは聞いていたが、
 池の平山を登りたかったので

面倒だったが500m登る、お下って北方稜線に入りが
 単純にそう思ったのだが、お下はイカの塩辛。池の平山の
 下りでビビって引き返してしまた。6mケーブル20mお
 ながらたので無理だと判断した。後で聞いたところにお
 とやはり懸垂2ピンは必要らしい。剣の威圧感に完敗だ。

・10月10日

- 6:40 出発
- 9:15 真砂沢 出発
- 14:30 黒部ダム

トランスして北方稜線という気にも
 ならず、下廊下と仙人池でおおか
 一杯だったのて帰りにした。二人
 とともに写真も撮って満足していた。
 ハンゴ谷を越え越え、黙々と夏合宿
 ロードを歩いて帰る。剣の規模の大きさに感動し、男を磨
 いてまた春に来ます。心にどう決めて山行を終えた。

10/13・14 冬合宿偵察

メンバー：1〜4年全員

1% 松本 = 新穂高温泉 ~ 鏡平 ~ 笠ヶ岳 T.S
420 600 || 645 1000 || 1035 1520

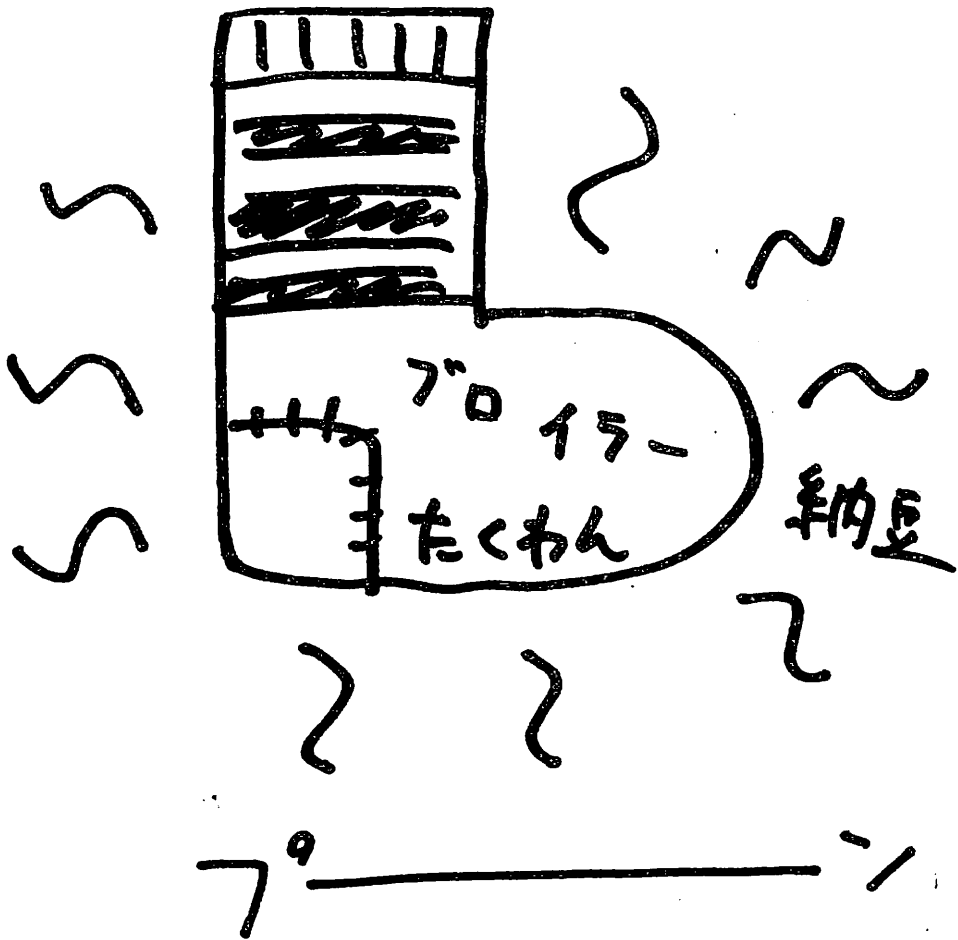
朝、くもっている。荷は軽いのでいたって楽だ。
鏡平より上は雪があり、おどろく。秩父平の核心
は、何かカートを見出す。冬が楽しみである。
夕方、急に雪がふり、非常に美しい風景が広がる。

1% T.S ~ 川内頭 ~ 錫杖岳 ~ 槍見温泉
600 810 1300 || 1330 1600

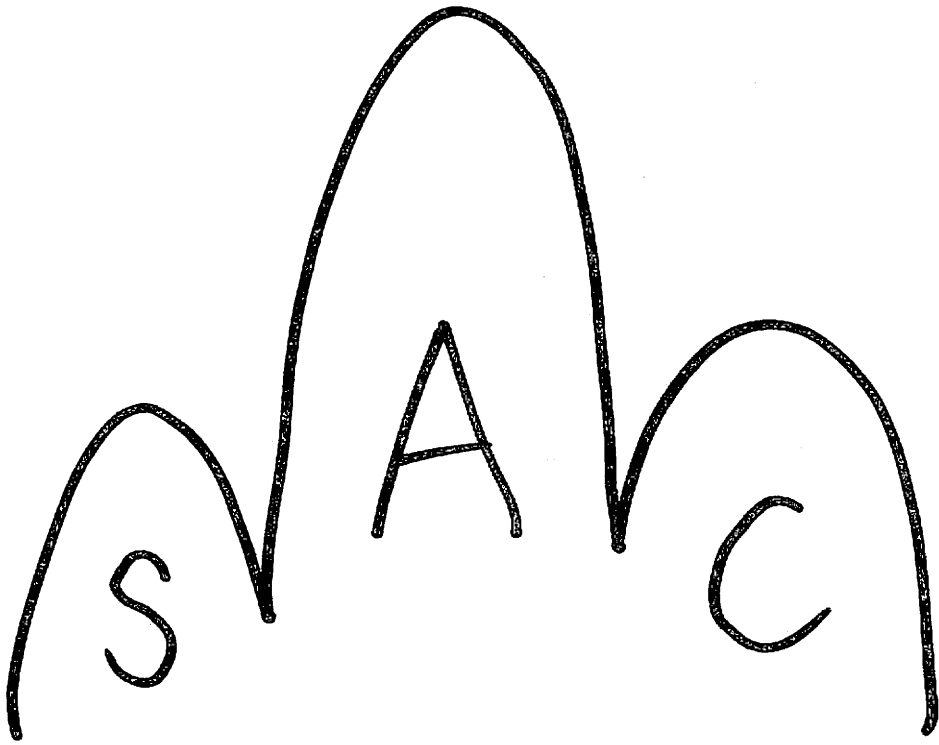
快晴。秋山はすばらしい。川内の頭より先
はヤブ。味すらヤブ。錫杖岳周囲は冬の核
心であろう。細い雪板道、岩稜帯あり、程
烈なウエセル道のマゾ的な素晴らしい合宿
になりそうである。錫杖岳山頂はいつ
来ても良い。そして軍艦のような本峰をス
カッコイ。牧南沢より錫杖沢を下る。
天気に恵まれた良い山行だった。
秋山はいい！そして冬が楽しみである。
夜、なべ呑み会をする。とても楽しい
一夜があった。 32

編集後記

初めて編集する。
毎回、松本の人達大変
だったのだと思った。



表紙.井上
編集.松崎
印刷.松本



信州大学山岳会